



夢を与え 勇気づける

校長 井口 修



大谷選手から届いたグローブです。お披露目の時、たくさんの6年生が、このグローブでキャッチボールをしてくれました。

能登半島地震から1ヶ月。被災地の厳しい状況を伝えるニュースは今も続いています。亡くなられた方へのお悔やみと、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

八小の子どもたちには、全校朝会や避難訓練の後などに「無理のない範囲で被災地のことを知ろう。」「身近な人を大切にしよう。」と伝えていきます。知ることが支援の出発となり、身近な人を大切にする経験、身近な人から大切にされた経験が、

やがて大きな支援を生み出すと思うからです。自分で気づき、身近な人を大切にする感性を育むことで、被災地を支援する芽を育てていきます。

さて、メジャーリーガーの大谷翔平選手から、野球のグローブが3つ届きました。子どもたちも大人も大喜びでした。恥ずかしながら私は跳び上がってしまいました。朝会で紹介し、中休みにお披露目会を行いました。その時、たくさんの6年生が協力してくれました。キャッチボールを下級生の前でしてもらったのですが、私がうれしかったのは、野球を経験している人もしていない人も、女子も男子も手伝ってくれたことです。大谷翔平選手の「子どもたちに野球を楽しんでもらいたい。野球に興味を持ってもらいたい。野球しようぜ!」というメッセージが実現している、と感じました。また、野球経験者の6年生のすごさも光りました。ゴロを軽やかにさばき、高いフライをキャッチし、剛速球を投げる!・・・下級生からは、「おおーっ!」という声が何度も湧き起こりました。

大谷翔平選手から、手紙も一緒に届きました。「このグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。」という一節がありました。今回の子どもたちの生き生きと輝いている表情を見て、大谷翔平選手のように、「子どもたちを笑顔にし、勇気づけ、夢を描けるようにする」そういう大人に私もなりたい!と強く思いました。



2月の生活目標

「寒さに負けず、体を動かそう」

私は寒さが厳しい青森県で育ちました。寒い冬を乗り切る秘訣は、運動です。少年時代は、持久走や縄跳びが好きで、よく体を動かしていました。おかげでいつも体はぽかぽか、風邪を引くこともほとんどありませんでした。学校では、体を動かすことの大切さを伝え、寒い日でも元気に外で遊ぶよう、促しています。ご家庭でも意識的に、体を動かす機会をつくっていただければと思います。

生活指導主任

🌱『わかば教室』から🌱

今年度も、4月に3・5年生、9月に1年生の各学級で、わかば教室の巡回指導教員による1時間の理解授業を行いました。

わかば教室のことをよく知るための【〇×クイズ】を行った後、わかば教室で実際に行っている【見るトレーニング】【聞くトレーニング】【友達と仲良くするための学習】を体験してもらいました。自分の得意なこと・苦手なことへの自己理解を深めながら、どの学習にも意欲的に挑戦していました。授業後の児童の感想を紹介します。

「ともだちになるれんしゅうありがとうございます。またやりたいです。(1年)」

「人それぞれ得意不得意なことがあることを改めてじっかんしました。(5年)」

わかば教室では、今回の授業と同様に、得意なことはもっと伸ばし、苦手なことは少しずつ頑張ることを目標に取り組んでいます。八小の児童全員が一人一人の多様性を理解し、尊重しようとする態度や行動力を身に付けていけたらと考えています。



【転出・転入について】

年度末に向けて、転出のご予定がある方は、できるだけお早めに担任までお知らせください。

また、周囲で転入の情報などご存じでしたら、学校までお知らせいただけるとありがたいです。よろしくお願いいたします。